

ヒメタイコウチの死体を小野市^{きびた}黍田町にて拾う

高橋 寿郎

ヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki は兵庫県下では西宮市、三田市、明石市、小野市に記録があり小野市青野ヶ原が現在日本での分布の西限となっている（西、1988）。

1991年4月11日小野市^{うた}黍田町（加古川のそば）にあるレストランの前庭駐車場にて押しつぶされたヒメタイコウチの死体を拾った。頭部は無く、肢も全部揃っていないかった。帰宅して田中 稔氏に頂いた西宮市産のヒメタイコウチ標本と比べて間違い無いことがわかった。死体はヒメタイコウチについて詳しくまとめられた伴 幸成、柴田重昭、石川雅宏氏著“ヒメタイコウチ”（文一総合出版、1988）によって（p.64）♂であることがわかった。青野ヶ原より若干東にあたる地点であるから特にとどうと云うことはないと思はれるが恐らく小野市内の他の地域でも調べたら本種の生息が確認される所があるのではないだろうかと思はれる。

追記. 1991年6月16日夜三木市の小倉 滋氏から電話を頂いた。色々新しいニュース、記録を教えてくださいましたがその中でヒメタイコウチも三木市内数ヶ所で生息が確認されているがいずれも環境破壊が近づいており絶滅するのではないかと心配であるとのことであった。

三木市美囊川畔のヒゲコガネ

（ 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 9 ）

高橋 寿郎

三木市の美囊川畔で6月末から8月始めにかけて日没と同時に多数のヒゲコガネ *Polyphylla* (*Gynexophylla*) *laticollis* Lewis, 1887（主として♂）が飛ぶ素晴らしい光景に就いて既に本誌上に発表させて頂いている（Vol.8, No.2, 1980）。早いものでその頃からすれば10数年経過しておりその後どの様な状況になっているのかわからないのでよくわからないまま現在にいたっている。最近永

幡嘉之氏から送って頂いた“釜城生物, No.5, 1991”によると数年前から末広橋での(従来筆者の調べたのもこの橋の両側であった)本種が稀少になって来ているとの記事が出ていた(p.12)。その後同氏の私信でも1986年頃から一晩に3~4頭にしか出会はなくなったとのことであった。

1991年5月9日蜂谷幸雄氏に無理を云って末広橋へつれて行って頂いた。

なる程橋の両側は河原がきれいに改修されていて芝を植えたようになっており土手も同じ様に改修され面目が一新されていた。さらに西側へも改修が及ぶのか土木機械がおいてあった。かつて河原には樹木などもあったのが跡形もなく無くなっていた(この樹にはハンノヒメコガネが多く来ていた)。この河原に生息していたと考えられるヒゲコガネはこの改修で恐らく潰滅的損害を受けたのであらうと考えられる。見た目にはきれいな川原になった様であるがこの河原を何に使用する考へているのか(東隣の福有橋の川原のように車の駐車場にするのであらうか)。とに角自然の川原ではなく人工の河原にさま変りしている。そこで生活していた虫達はその改修工場で絶滅を余儀なくされてしまった様に思はれる。まだ他の地点に生息している所が残っているだらうと思はれるが身近で多く生活している所はどうやらなくなってしまったようである。市街地を流れている様な川では自然を求めることは出来ないのであらうか。

追記。脱稿後三木市の小倉 滋氏からの御教示によると美囊川ぞいの他のヒゲコガネの産地でも川原の改修なんか全くされていないような所でもここ数年採集出来る数が極端に減少しているとのこと。何か川原の改修といった環境破壊以外にも減少する原因があるのかもと考へられたりする。

ヒラタアオコガネ広野ゴルフ場(三木市)に大発生

(兵庫県甲虫相資料・260)

高橋 寿郎

1991年4月22日の夜兵庫野鳥の会事務局長坂根 干氏より電話を頂いた。“本日広野ゴルフ場で物凄い数のコガネムシが群飛していた。捕虫網を持って行ったら何百匹と簡単にとれそうだったと。マメコガネよりやや小さいコガネムシと思はれるが何んと云うコガネムシだらうか”とのことであった。実物を見なくてはと何んとも云えないが出現期からして早春に見られるウスチャコガネだらうと考へ